



百花繚乱（ひゃっかりょうらん）～運動会から～

副校長 杉山貞文

5月21日（日）に『令和5年度 上寺尾小学校運動会』を、4年ぶりの全学年一斉参加の形で実施しました。3年間分散開催だったため、1～4年生にとっては、初めての一斉参加の運動会でしたが、自然と応援の声が上がったり、拍手が巻き起こったりする様子が見られ、コロナ前の「熱く盛り上がった運動会」が戻ってきたような一日となりました。たくさんの方の参観、児童の健康管理、実施後のアンケート等、保護者の皆様のご協力に感謝します。本当にありがとうございました。

今年の運動会で強く感じたことが一つあります。それは「一人ひとりが、その子なりの頑張り・輝きを見せる」ということです。もちろん、これまでの運動会にもあったことだと思いますが、全学年一斉開催になったことで、昨年までの3年間よりも「校庭に出ている時間」「見ている人の数」が増え、子どもたち一人ひとりの意識も高かったのではないかと思います。直接外で応援できる機会が増えたことや、開閉会式といったセレモニーを学校全体で参加できたことなども、意欲や主体性、責任感を伸ばす要因になったのではないのでしょうか。

「玉を入れることと同じくらいチェッコリダンスに本気だった1年生の子」

「どうやったらリズムに合わせてかわいく踊れるか、練習中ずっと考えていた2年生の子」

「時間を無駄にしないようにと、徒競走や団体競技の練習中に、きびきび動いていた3年生の子」

「エイサーの演技のお手本になろうと、肘をピンと伸ばして、常に全力で踊っていた4年生の子」

「綱引きで、みんなの気持ちを盛り上げようと、大声で仲間を鼓舞し続けていた5年生の子」

「ソーラン節を成功させようと、本番を迎えるまで毎日学校や自宅で練習に励んだ6年生の子」

本番の日だけでなく、それまでのおよそ1か月間の練習期間においても、多くのいろいろな頑張り・輝きを見ることができました。

そんな運動会の感想を一言で述べると、「百花繚乱」がぴったり当てはまると思います。百花繚乱とは、「いろいろな花が咲き乱れること」転じて「すぐれた業績や人物が一時期にたくさん現れることのとえ」です。当たり前のことですが、子どもたち一人ひとりには個性があり、頑張るものも、頑張り方も、その頑張る様子も違います。みんなが同じではないし、同じになるはずもありません。しかし、運動会という場では、全力で徒競走を走り、協力して団体競技に取り組み、一糸乱れぬ団体演技をめざすあまり、子ども個々の目標やゴールも同じものになってしまいがちです。全体の大きな目標を掲げるのは良いことですが、あくまで子どもたちには、「自分自身を見つめ、自分のために目標をたて、それに向けて頑張っている自分」をめざし、その過程や結果に対して、自分自身が一番に悔しがったり喜んだり褒めたたえたりすることができる人になってほしいと思っています。

今日で5月が終わり、明日からは6月。これから夏が本格的に始まろうという時期です。今後も、子どもたち一人ひとりが、自分自身の頑張り・輝きをたくさんみつけられるよう、職員一同、全力で支援していきたいと思っています。

☆今の上寺尾短歌☆

それぞれに 頑張ることは 違うけど どの姿にも 拍手の嵐

最後まで 結果わからぬ 大接戦 最後の位 「6と7か～」

もともとね 一人ひとり は オンリー1 (ワン) それらが咲くから 百花繚乱